



LWB-24(A) / LWB-72(A)メイン FPGA プログラム Ver. G (Standard Edit.) / Ver. H (Expanded Edit.) / Ver. A (async*) リリースノート

オタリテック株式会社

2024 年 6 月 25 日

LWB-24 / LWB-72 メイン FPGA プログラム Ver. G (Standard Edit.用), Ver. H (Expanded Edit.用)および Ver. A (async*用)をリリースいたしました。旧バージョン*からの変更内容は以下の通りです。なお、LWB-24/72 メイン FPGA においては Ver. E 以降、LWB-24/72 のエディション (Standard Edit., Expanded Edit.)により最新のバージョン番号 (E, F, G, ...)が原則的に異なりますのでご注意ください。

async*) LWB-24A, LWB-72A を指します (下記においても同様)。
旧バージョン*) Standard Edit.は Ver. F, Expanded Edit.は Ver. G, async は Ver. - を指します。

【重要】

・メイン FPGA Ver. F (Standard Edit.の場合), Ver. G (Expanded Edit.の場合)より前のバージョンからアップデートする場合は、同バージョン以前のリリースノートもご確認ください。

1 修正された不具合 (※下記 1-2, 1-3 は Standard Edit. 用プログラムには含まれません)

1-1 LWB 本体に同期している SDI 信号を入出力しているとき、出力した SDI が正常ではない(同期していない)状態となることがある

備考: LWB 本体起動時に入力設定となっている SDI チャンネルの初期化が正常に行われなかったことがあるのが原因で、起動後にこの SDI チャンネルの Direction を一度 OUT に設定すると正常化します。LWB ファームウェア Ver.3.1.0 以降でのみ発生します。なお、この不具合は LWB-24A/72A では発生しません。

1-2 フィックスド MADI およびエンベデッド・オーディオの各チャンネルの 3 色 (赤・緑・黄) レベル表示がピーク情報ではない

備考: 当該の 3 色レベルは LwcV3 (LWB-24/72 シリーズ専用のコメントリー&コミュニケーション・システムをコントロール/モニターするウィンドウ用アプリケーション)内のみ表示されます。今回リリースするバージョンよりも前のバージョンでは、瞬間々々のレベルが LwcV3 に読み込まれていたため、例えば赤となるべきレベルでも凡そ黄で表示されていました。

1-3 フィックスド MADI モジュールの設定を SRC=オン / Fs=96kHz / Input Fs=192kHz とし、非同期の 192kHz MADI 信号を入力して任意のチャンネルに出力する場合、周期的なノイズを発生する

1-4 レガシー・モジュール ⇒ メイン・モジュール間のデータ通信を安定化させる回路の誤動作

備考: Standard Edit. Ver. F, Expanded Edit. Ver. G, および async 用 Ver. - に導入した「レガシー・モジュールがバックプレーンに出力したデータをメイン・モジュールが受信するタイミングを自動的に最適化する回路」が、モジュール構成等によっては誤動作する場合があります。あることが発覚し、これを修正しました。

2 改良または追加された機能

2-1 2472 MADI モジュール対応

備考: 2472 MADI モジュール (LWB-24(A)/72(A)専用モジュール)は OPT チャンネル (光ファイバー接続) と COAX チャンネル (BNC 接続) とが独立 (合計で入出力共に 128 チャンネル) し、192kHz に対応した I/O モジュールです。本モジュールを使用する場合、LWB-24/72 ファームウェアを Ver. 3.2.0 (Expanded Edit, Standard Edit.) 以降に、LWB-24A/72A ファームウェアを Ver.1.2.0 以降に、LwcV3 を Ver. 1.5.0 以降にバージョンアップする必要があります。

以上